

東大が第2外国語特訓 新年度から中・独・仏・露

東京大学は、英語と第2外国語の両方を駆使し、国際社会で活躍できる人材を育成する「トライリンガル・プログラム」(TLP)を2016年度から拡充する。これまでの中国語に加え、ドイツ語、フランス語、ロシア語のプログラムを設ける。

外国人教員らによる少人数指導を行い、1年半の学習で海外の大学に留学可能なレベルに到達することを目指す。

TLPは、新入生約3000人のうち、入学時の英語成績が上位1割(約300人)の学生が選択できる。定員は13年度から

先行実施している中国語が60人。新設する独語、仏語が各40人、露語は20人。

文・理系問わず履修できるが、希望者が定員を超えた場合は、英語成績で選抜する。入学当初は上位1割から外れた学生でも、定期試験の英語と第2外国語で高得点をとれば、TLPの履修を許可される場合がある。2年生の夏に、海外の大学で開かれるサマースクールへの参加も計画されている。